

酪農学園大学ボランティア派遣

石巻チーム第一陣

渡辺 洋子 更科 響 岡崎 智仁 野田 将寛



活動概要

- 期間
 - 2011年4月28日(金)
～ 5月 8日(日)
- 場所
 - 石巻を拠点とした宮城県沿岸地域
- 活動内容
 - NPO法人パルシックの活動参入
 - 気仙沼市小泉浜災害ボランティアセンターでの活動支援



NPO法人パルシック

- 活動理念

- ただ物資を送るだけでなく、住む人と話し触れ合うことで信頼関係を構築する
- 本当に必要な物資を必要な分だけ配布する
- 見落とししやすい僻地の避難所や少人数の避難所、自宅避難まで巡回する

- 活動内容

- 倉庫管理
- 物資の配布
- 瓦礫撤去作業
- 個人宅の復興支援



倉庫とは

- ・物資を集めておくための場所
- ・物資の整理



配布とは

- 物資が必要な避難所に配布
- ニーズの調査

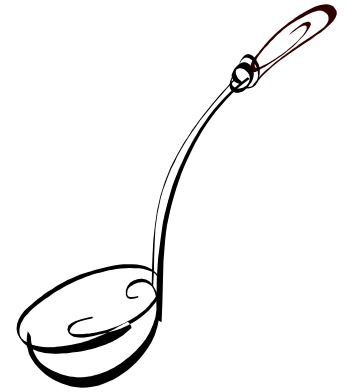


←物資の積み込み

↑物資の配布&ニーズ調査

避難所のニーズ

- 食料、調理器具など



- 衣類、靴などの生活用品



- ソーラーパネルでの電気の供給



避難所の様子・現状

- 様子
 - 比較的元気
- 現状
 - 衣服などが洗濯できない。
 - ほとんどプライベート空間がない
 - 仮設住宅に移動する人が増加
 - » 身体的・精神的ストレス



はまセンについて

- ボランティアセンター 兼 避難所になっている。
- 総ボランティア人数が200~300人
- 「チェーンソーを扱える」など
特殊な技能を持った人が多数いる。



活動内容

- 活動内容
 - 朝のミーティングで今日の活動を決める
 - 瓦礫撤去、倒壊家屋の解体



瓦礫撤去・倒壊家屋の解体について

- 倒壊した家屋の手作業による解体作業
 - 記念品・遺留品の回収
- 瓦礫処理場の確保
 - 散乱した瓦礫を撤去し重機が入れるようスペースを確保する
- 瓦礫の分別作業
 - 重機が入った際効率よく作業が進むよう瓦礫を種類別に分別



はまセン被害状況

- 被害状況

- 海に近いので、少し高いところでも津波で流されてしまっている。
- 瓦を使った家屋が多く、大量の瓦や木の板、破片などが落ちて



↑ 津波でなぎ倒された家

↓ 乗りあがってしまった瓦礫の山



個人宅の復興支援

～佐々木宅～

- 被害状況
 - 工場完全浸水・破損
 - 自宅1階浸水
- 活動内容
 - － 工場内の瓦礫及び土砂撤去
 - － 木材運搬



佐々木さんの話

- 人との繋がりの重要性
 - 何をしたというより、来たということ自体が精神的支援に繋がる
 - 復興へ前向きに歩むきっかけ



瓦礫処理の状況

- 仮置き場が増え、民有地にまで広がっている。
- 各自治体だけでは、全ての瓦礫を処理するのは困難



災害廃棄物の推計量

岩手県……約600万 t

宮城県……約1600万 t

福島県……約290万 t

合計:約2490万 t



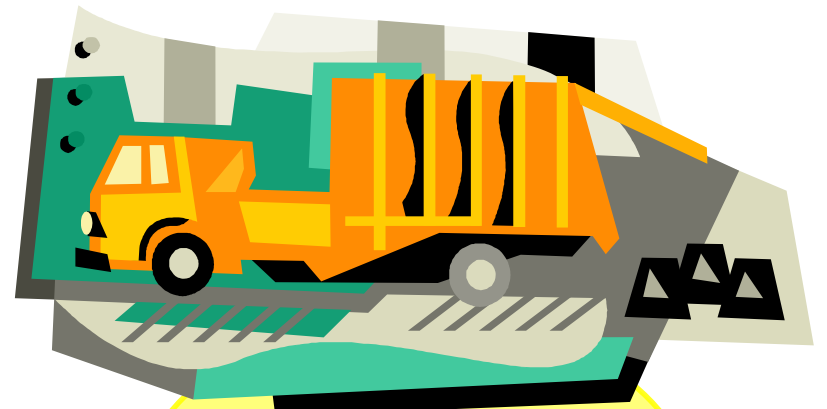
阪神大震災より
約1.7倍の量

瓦礫処理までの流れ

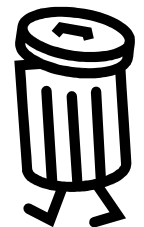


一次仮置き場

二次仮置き場



処理場



津波の被害

- 各地の状況
 - 処理されていない瓦礫が大量に残存
→リアス式海岸の南北300Kmに渡り津波の被害
 - 未だ電気・水道・ガスが復興していない
 - 地盤沈下による浸水


↓ソーラーパネルによる発電



→崩壊した街が延々と続く

気仙沼市小泉浜
海岸から数キロ離れた地点でも
津波の影響が及んでいる





石巻市内
地震の影響により地盤沈下
マンホールから汚水が流出
→ひざ下ほどの高さまで浸水

ご清聴
ありがとうございました

